

特集

心華やぐ信州の花。

気候・風土が生み出す、

多様な花々

ただいま絶賛出荷中！

全国ナンバーワンの花

長野県の農産物というと野菜やフルーツが有名ですが、実は全国有数の花き生産県でもあるんです。

長野県の涼しい気候で育った花々は花色鮮やかで、日持ちが良いのが特徴で、1年を通じて高品質で安定した商品を提供しています。

長野県が全国第1位の生産量を誇る花が、これから夏に向けて出荷の最盛期を迎えます。



シャクヤク

丸くて愛らしいつぼみ、華やかで清楚な花姿、豊かな香りから人気急上昇中です。

主な生産地域 北信、上小地域 など

「立てばシャクヤク…」と言われるくらい美しい姿・形を活かして、一輪挿しで飾ると魅力的です。



トルコギキョウ

長野県はトルコギキョウの切り花栽培発祥の地。多彩な色・形で時代のニーズに応え続けています。

主な生産地域 諏訪、長野、上伊那地域 など

トルコギキョウは主役にも脇役にもなれる花。小花でも大輪でも、組み合わせ可能な使い勝手の良い花です。



カーネーション

「和洋折衷でいかなる場面にも使える花」、「定番商品」として市場や生花店などの人気も高い花です。

主な生産地域 諏訪、佐久、松本地域 など

カーネーションは短く切られて使われることも多い花ですが、あえて茎を残して、その姿の美しさが分かるように飾るのも素敵です。

オンリーワンの花づくり

生産者
インタビュー



トルコギキョウ育種家・生産者

伊東 茂男さん

伊那市

県外の種苗会社に勤務後、長野県で就農した伊東さん。トルコギキョウの生産を始めた当初は、購入した種子が上伊那地区の気候に合わず栽培に苦労したそうです。その後自ら育種に乗り出し、今ではJA上伊那で生産されるトルコギキョウの約8割が伊東さんの育成品種になるなど、産地のブランド化の一翼を担っています。

今は秋のお彼岸時期の出荷がメインですが、今後は秋のブライダルシーズンにも出荷できるように、白、薄いピンク色の品種の開発に取り組んでいます。伊東さんは「上伊那の白、ピンク色にかざるねと言われるようなオリジナルの品種を作るのが今の目標。」と語ってくださいました。

長野県が生産量上位を誇る花は、まだまだたくさんあります

アルストロメリア

生産量

第1位

[出荷ピーク:4月]

ダリア

生産量

第1位

[出荷ピーク:6月]

リンドウ

生産量

第2位

[出荷ピーク:8月]

など

長野県の旬の花情報は、「信州の産地”先採り”ネット」をご覧ください。

[クリック!](#)

特集

心華やぐ信州の花。

専門家が提案。 花のある暮らし

インタビュー

日常に花を取り入れると、あなたの生活に潤いが生まれるかも！？
花のある暮らしについて「花のプロ」にヒントをいただきました。

株式会社フレネットHIBIYA

事業本部 取締役部長 藤井 毅さん

フラワービジネスの総合会社である日比谷花壇グループ。事業の重要な柱の一つであるブライダル事業は、ここ数年は秋がピークになっています。この時期に品質の高い切り花を提供できる産地として、長野県を選んでいただいています。



「記念日には花束」はいかが？

皆さんに花のある生活をしてもらうために、日比谷花壇グループを始め、業界全体でその仕組みづくりを進めています。一つが花をプレゼントする機会を増やすこと。「母の日」にカーネーションを贈る習慣は定着していますが、それ以外にも例えば1月31日の「愛妻の日」、2月14日の「フラワーバレンタイン」など、花を贈る機会の提案をしているところです。皆さんも日常のちょっとした記念日のプレゼントとしてぜひ

ひ花を選んでみてください。

もう一つは、部屋のインテリアとして花を活用していただくことです。リビングなどに観葉植物を置くご家庭が増えてきています。花も観葉植物と同じように、部屋を彩るインテリアとしてご家庭に取り入れてみてはいかがでしょうか。



「フラワースクール」に通ってみては？

インタビュー

長野県生花商業協同組合 理事長
株式会社SK花企画 社長

金澤 茂さん

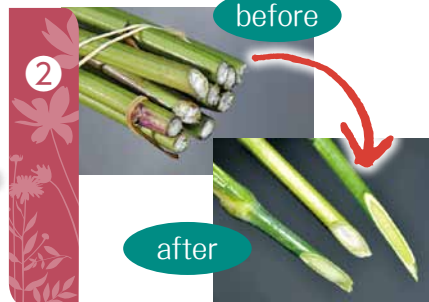
佐久市

私のお店では、子どもから大人までが通えるフラワーデザインのレッスンを開講しています。フラワーデザインって決して難しいものではないんです。食卓に花一輪だけ飾るのも立派なフラワーデザイン。スクールに入れば、花の飾り方のバリエーションが増えますし、「どうすれば花が長持ちするのか。」といった基礎から教えますので、フラワーデザインをもっと身近に感じていただけたらと思います。

花を長持ちさせるワンポイントアドバイス



① まず水につかる部分については、葉っぱをきれいに取ってください。そのままにしておくと、葉っぱが腐ってバクテリアが発生し、花が長持ちしない一番の原因となります。



② お店で買った際、茎先は写真のように、まっすぐに切られている場合が多いです。ハサミ、もしくはナイフで斜めに切ってください。斜めに切ることで、花が水を吸う面積が大きくなります。



③ こまめに水を替えてください。ホームセンターなどに売っている延命剤を使うのも一つの方法です。①～③をしっかりやれば、5日以上は「花の持ち」が変わってきます。

特集

心華やぐ信州の花。

ブライダルに人気の花 「トルコギキョウ」

トルコギキョウは、多彩な色や形、そして華やかな印象から、ブライダル用の切り花として人気の高い花。長野県産はピンクや白を中心に出荷されています。

そして、ブライダル用などの生産をより強化するため、長野県が取り組んでいるのが「トルコギキョウ秋出荷産地化プロジェクト」です。

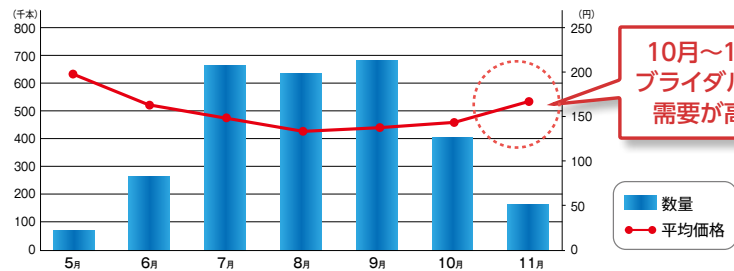


トルコギキョウ 秋出荷産地化プロジェクト

秋の出荷量が少なかった
長野県産トルコギキョウ

10～11月はブライダル用などで需要が高まることから、トルコギキョウの単価はぐっと上がります。一方で、作柄が不安定になりやすいことから、生産量はピーク時の7～9月から急減。必要とされる時期に安定した供給ができるよう、品種育成と栽培技術の確立が求められています。

■長野県産トルコギキョウの出荷量と単価の推移 (H25 東京都中央卸売市場データより)



10月～11月は、
ブライダル用等の
需要が高まる。

秋出荷に向けたオリジナル
品種が完成

野菜花き試験場では、秋期にも品質が高く、安定した供給が期待できるピンクと白のトルコギキョウ4品種を開発しました。この4品種は、花数が多く、栽培しやすいのが特徴。昨年度、試験的に栽培を実施し、県内生産農家や生花店から高い評価をいただきました。



オリジナル品種の「長花交35号」(左)と「長花交36号」(右)



秋出荷への栽培の様子

技術開発の最前線!

長野県野菜花き試験場

長野県産トルコギキョウの秋期への出荷に当たり、栽培技術の確立や、今回のオリジナルブランドの品種育成に取り組んだのが、塩尻市にある長野県野菜花き試験場。品質が高い花をさらに安定的に生産できる技術や省力化・低コスト化が可能な技術の開発、新しい品種育成など、日々研究に取り組んでいます。



いよいよ今年度
出荷デビュー!

試験栽培の結果を受けて、いよいよ4品種が今年度デビューを果たします！秋の出荷に向けて、種の販売を開始し、新しい品種の普及に取り組んでいます。ブライダル用として、花束用として、新しい品種のトルコギキョウがあなたのお手元に届く日も近づいています。

信州の山を 彩る人々



[森のようちえん「くじら雲」代表兼保育者]

依田 敬子さん

平成26年度は、「信州 山の日」制定の年。連載企画「信州の山を彩る人々」では、信州の山に関わるさまざまな皆さんが、信州の山の魅力について語ります。

第2回は、安曇野市の押野山で森のようちえん「くじら雲」を運営している依田敬子さん。森のようちえんを設立したきっかけや、保育をする上での里山の魅力について伺いました。



森の ようちえん とは

幼児期の子どもを対象に、屋外での遊びや運動を中心にさまざまな体験を深め、知力と体力を同時に高めることができるとして全国的に注目される新しいスタイルの子育て方法。長野県内には全国で最も多い16団体が確認されています。

理想を求めて

もともと公立や私立の保育園で、保育士として働いていました。13年間勤めていくうちに、私の理想とする保育というのが、だんだんと具体化されてきたんです。そうした中で出会ったのが、週に1回親子で安曇野を散歩するという会を開いているグループの皆さん。そのグループのお母さんたちが「デンマークの森の幼稚園みたいな幼稚園をつくりたい。」という思いから「野外保育 森の子」を設立したんです。「このお母さん方だったら理想の保育ができるかもしれない。」と思い、私も保育者として携わることになりました。その後、入園希望者が増えてきたことから、私が独立して「くじら雲」を設立しました。

子・親・保育者が共に育ち合う環境

「くじら雲」では、3才から5才までの未就学児童を20人ほど保育します。それくらいの規模だと、子ども一人ひとりの思いを理解・把握しやすく、子どもたち主体の活動ができるんです。また、異年齢の子どもたちが集団で過ごすことで、年上の子どもが年下の子の面倒を見たり、教えたりする「縦のつながり」ができるのも「くじら雲」の魅力の一つです。

「くじら雲」には参観日がなく、保護者の皆さんには、いつでも参加したいときに参加していただいています。子どもたちの普段の姿に触れることができるので、私たちもスムーズに連携を図れます。保護者間のつながりも生まれて、保護者の皆さん同士がお互いに助け合うことも。拠点内にあるベンチも保護者の皆さんに作っていただいたんです。子ども親も保育者も共に育ち合うことができる環境を作れていると感じています。



里山をフィールドに遊ぶ子どもたちの表情は とても生き生き

子どもたちに良い刺激を与える里山の魅力

私たちは押野山を拠点に活動しているのですが、こうした里山は幼児にはとても良い環境だと思います。里山はもともと人が生活していた場所。人と動植物が共生している環境には、子どもたちの興味を満たすものがたくさんあるし、子どもたちは自分に必要な刺激を選ぶことができます。山の斜面やでこぼこの道を歩くことも、子どもたちの体の成長にとっても良い影響を与えてくれます。一方で、皮膚がかぶれてしまう漆などの植物、花の周りを飛び交う蜂など、里山は危険とも当然隣り合わせ。子どもたちは自分で自分の身を守る方法を身に付けなければなりません。でも、危険と隣り合わせだからこそ、例えば「なぜ自分は帽子をかぶらなければいけないのか。そうか！蜂が周りに飛んでいるからか。」と実際に経験する中で学ぶことができます。

新しい保育の形として

「くじら雲」のような保育を一つのスタイルとして今後はもっと認めていただけたらと思います。そうすると、保護者の方たちももっと自分の子どもに合った保育を選択できる環境になると思うんです。

また、保育者の育成というの大きな課題です。活動がもっと盛り上がるように、育成を含めて、日々努力をしていきたいと思っています。



自然を相手に想像力を膨らませて自分たちで遊びをつくる

信州の山に関する情報は「信州の山 ポータルサイト」でCheck!

▶ <http://www.pref.nagano.lg.jp/kikaku/yama.html>

うたで巡る #2 信州の原風景

童謡「てるてる坊主」

童謡「てるてる坊主」は、作詞者 浅原鏡村(六朗)(池田町出身)、作曲家 中山晋平(中野市出身)という長野県コンビによって誕生しました。

浅原鏡村の故郷である池田町は、町のキャラクター「てるみん」「ふ〜みん」を始め、いたるところに「てるてる坊主」が使われています。

[関連施設] てるてる坊主の館 (浅原六朗文学記念館) (池田町) ⇒webへ
中山晋平記念館 (中野市) ⇒webへ

童謡「てるてる坊主」も収録された「信州宝歌」は県内CD販売店などで現在好評発売中。
⇒信州宝歌の試聴ページ



池田町のキャラクター「てるみん (左)」「ふ〜みん (右)」